

阿蘇郡

〔肥後國志<sup>十五</sup>〕阿蘇郡

高六万六千二石四斗三升五合五勺三才、但軍役高五万四千六百廿八石三斗二升、村數五百三十七ヶ村、此内今郷村八十四枝郷四十一ヶ所、其外ハ不載郷帳村名ト云リ、此郡ニ古來郷庄ノ名有ル歟、未考之、俚俗今南郷小國郷ト二郷ヲ稱ス、上古阿蘇國ト稱シテ、火ノ國トハ別國也、舊事本紀ニ、火ノ國、阿蘇國、葦北國、天草ノ國トアリ、後ニ火ノ國ヲ分テ肥前肥後ト號シ、右ノ阿蘇葦北天草ヲ郡トシテ、肥後國ニ加ヘタリ、同書ニ曰、國造紀阿蘇國造ノ下ニ、瑞籬ノ朝人王十代崇神帝朝後世、火ノ國造同祖、神八井耳ノ命ノ孫速瓶玉命定賜國造トアリ、是當郡守始ト見ヘタリ、阿蘇郡ノ事ハ、異域本邦ノ書籍ニモ載之、日本紀景行帝本紀ニモ阿蘇國トアリ、亦釋日本紀ニ引筑後風土記、肥後國關宗ノ縣ト記セリ、當郡ニ内牧、坂梨、布田、高森、野尻、菅尾、馬場、北里、久住等九手永有リ、

〔西遊雜記<sup>五</sup>〕阿蘇郡にて、今二万八千石の地といへども、東西凡十里餘、廣大なりといへども、山ばかりにて原野も數多にて、笹倉などいふ原は、昔の武藏の、原と稱せしも、かゝる原ならんと思ふばかりの、廣々とせしところ也と、土人物語には、開田せば阿蘇郡にて十餘万石も出來べき原地有所ながら、人のなき故に、古田も年々に荒はてるといひき、中此邊は幾り行ても、花咲草木なく、土色は黒く、水の流れも濁水にて清からず、谷々に於て菖蒲の花を見しばかりにて、日本のうちにも、かゝる下々國もあるものかなと驚し所なり、略下

〔釋日本紀<sup>述十義</sup>〕筑紫風土記曰、肥後國關宗縣、縣坤二十餘里、有一禿山、曰關宗岳、中所謂關宗神宮是也、

合志郡

〔肥後國志<sup>十四</sup>〕合志郡

當郡總高四万九千七百五十三石一斗一升四合七勺五撮、此軍役高三万四千六百九十一石一斗八升也、村數二百一ヶ所、此内今郷村六十、枝郷十三ヶ所、此外ハ不載郷帳村名ト云リ、中ノ郷北